

令和4年度



# 赤羽根の里だより

茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り  
『保護者と教師の会』特別号

令和4年9月13日(火)  
校長 高橋 励



## コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度) 設置への取組が動き出します！

教育関係の情報にお詳しい方はご存じかもしれませんが、現在、茅ヶ崎市では、市立小・中学校全32校でのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)設置の推進に取り組んでいます。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは、『**学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み**』と説明されていて、コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極

的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができるとされています。(文部科学省HPより)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/)

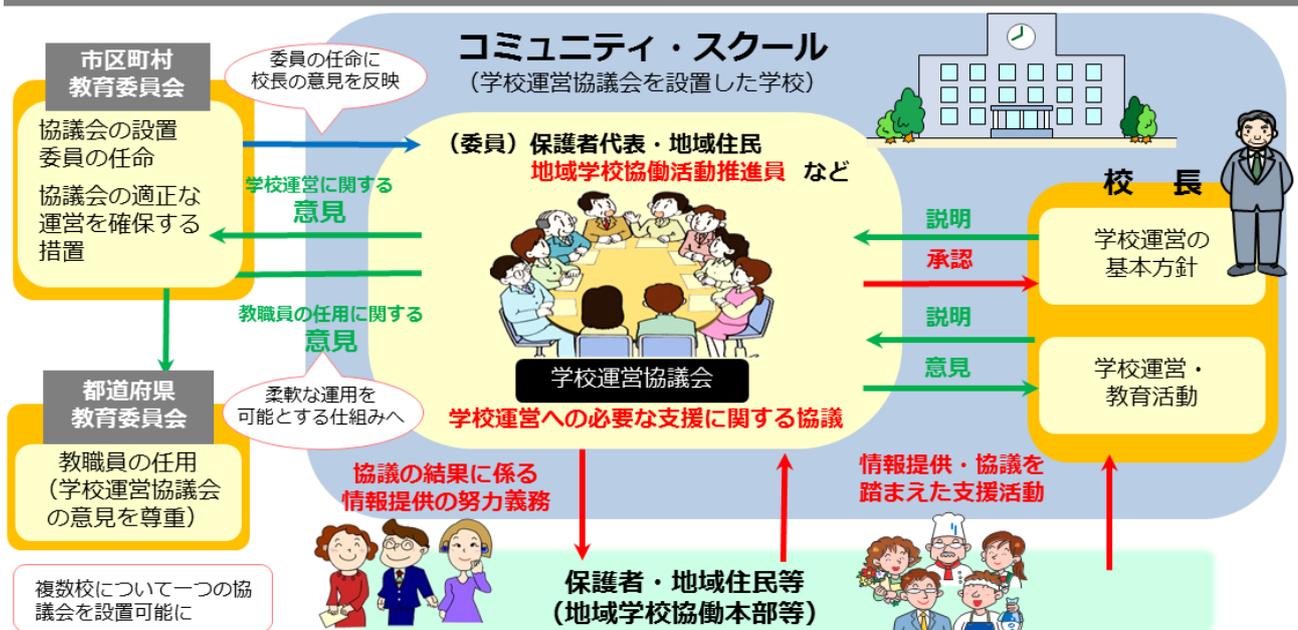
### 学校運営協議会の役割とは？

学校運営協議会の主な役割として、

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べることができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

の三つがあります。

## コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



### <学校運営協議会の主な役割>

地教行法第四十七条の五

教育委員会が、学校や地域の实情に応じて学校運営協議会を設置

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができること



## 茅ヶ崎市のスケジュール

茅ヶ崎市は、市教育委員会の設置計画に沿って、令和3年度にモデル校として松浪中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしてスタートしています。また、夕見台小学校・香川小学校・鶴が台中学校の3校が、令和4年度設置に取り組んでいます。

その後のスケジュールとしては、令和5年度に7校、6年度に8校、最終年度の7年度に13校に設置することになっており、**赤羽根中学校は、小和田小学校とともに7年度の設置**となっています。

\*\*\*\*\*

「**学校運営協議会**」は、校長をはじめとする学校教職員と、「地域学校協働本部」等という大きく2つの立場から、「学校」という子どもが育つ教育環境をよりよくしていくための協議の場です。学校にとっては、学校経営について説明する場になりますし、地域や保護者の側からは、子どもたちが安全で健やかに育つために学校に求めることを意見として挙げながら協議を進める場になるということです。

「**地域学校協働本部**」とは、地域の側から学校との協働を考え、より多くのより幅広い層の地域住民団体等（社会教育施設・団体、地域文化・スポーツ団体、PTA・保護者会、等）が参画し緩やかに形成されたネットワークとしての集まりです。そこでは「学校でこういうことに取り組めないか」という提案も話題になるし「学校の取組にこんな協力をする準備ができますよ」といった支援体制が構築されることが期待されています。

また、このコミュニティ・スクールという仕組みには「**地域学校協働活動推進員**」という、学校と地域とをつなぐ役割を担う方の存在が欠かせません。その土地によって地域の持つ特色や課題も異なります。学校職員は異動により必ず入れ替わりがあります。それをつなぐ役割を担ってもらうことになります（茅ヶ崎市では、調整役として“地域コーディネーター”という立場の方を、教育委員会が委嘱できるのですが、その役割の発展型と考えるのが近いイメージだと思います）。

耳慣れない言葉も出てきましたが、これから少しずつお伝えしていきます。

「保護者と教師の会」は、開校当初の「学級代表委員会」を発展させ、「保護者と教職員の連携を密にし、生徒の人格の形成と、教育環境の充実を図る」ことを目的に「父母と教師の会」として発足し、平成8年度の改名を経て今日に至っています。

例年は、体育祭・合唱祭・ふれあい講座などの行事運営のお手伝いや、基準服の再利用に向けたリサイクル、推進協主催事業（中学生と大人の集い・地域パトロール）や地域の会への参加・協力等による連携などに取り組んでいただいています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置にともない「保護者と教師の会」もその在り方や役割に変化が求められるかもしれません。赤羽根の里の子どもたちの9年間をどのように支えるかを、小和田小学校とともに考えることも必要かもしれません。この地域に暮らすオトナとして、ぜひお知恵とお力をお貸し下さい。